

子どもの学びを支え学校経営改善に寄与する学校事務職員を目指して

只見町立明和小学校
主査 舟木 希

1 はじめに

南会津地域は小規模校が多く、特に近年は複式学級の増加に伴い教職員数が減少し、人手不足が学校運営上の課題となっている。また、本町では学校運営協議会（コミュニティスクール）がすべての小中学校に設置され、地域とのつながりも強く効果的な地域連携の在り方が求められている。教職員一人あたりの校務分掌が増え負担も大きくなっている現状において、学校事務職員として出来ることは何か、学校経営への参画から課題解決を目指し、以下の取り組みを行った。

2 実践内容

(1) 財務からのアプローチ

①学年会計の見直し

本校では南会津郡事務研で標準化に取り組んだ「校内会計取扱要項」に基づき、各種会計を執行している。学校事務職員は会計主任に位置付けられ、これまでは、学年会計（学級費・教材費）については主担当を学級担任に充てていたが、会計業務効率化と複式学級で2学年分の会計を持つ教員の負担軽減のため、会計主任を主担当とした。また、学級費については、只見町学校事務共同・連携グループにおける見直しの取り組みから廃止することとした。学級全体で使う物品は基本的に公費負担、遠足の費用など徴収すべき経費は教材費の口座引き落とし日に合わせ、その都度集金としたことにより、担任の学級費管理と年度末の返金業務が軽減された。

②購入物品の紹介

児童玄関近くにある「メッセージ黒板」で、購入した物品の紹介を行ってきた。現物も合わせて展示しておき、ほぼ全ての児童が登校時に見たり触ったりして時には感想を聞くこともあり、公共の物に関心を持たせるきっかけになると同時に教職員への周知も兼ねている。毎回、税金や資源回収の収益など公の財源で購入したことを伝えるとともに、特に資源回収等の保護者や地域の方々からたくさんの協力をいただいている部分について、児童自身の活動と物品を結びつけることで身近に「明和地区」を感じる機会と位置付けている。

③環境整備への関わり

校内の補助金の申請や請求、報告までを一括して学校事務職員が担うとともに、特に環境整備（緑化）においては、担任外の教職員と協力して取り組みを進めている。苗や球根の定植ひとつをとっても、児童数が少ない本校においては人数と時間の確保が困難である。そこで、児童の自主性に期待し、給食時に「昼休み、遊ぶ前に花を植えるお手伝いをしてくれる人を募集します」と呼びかけボランティアを募った。昼休みになり、我先にと校舎から飛び出してきた児童を学務員と迎え、100本近い苗を植えることができた。上学年が下学年に手本を示し作業する姿も見られ、児童からは「またいつでも、たのんでください！」と、嬉しい声掛けがあった。



展示物に触れる児童



資源回収の収益で購入した物品

(2) 新たな役割からのアプローチ

○地域連携担当教職員として

これまで教員が担っていたが、令和5年度から主担当として関わることとなった。教員よりも対外的なつながりの多い学校事務職員の立場は行事等での連絡、調整において効果的であろうと考え、次の取り組みを行った。

・ESD（持続可能な開発のための教育）への関わり

明和地区にある3つの伝統芸能について、児童が保存会の方々から教わり、継承し、発表する学習に取り組んでいる。地域連携担当教職員として、日程調整と練習場所の確保、必要物品の確認と購入、月ごとの実績報告作成と提出を行った。校内の事情を把握したうえで窓口となり一人で複数の保存会と調整できたことは、学年担任がそれぞれ対応するよりも、双方にとって効率的であった。

・地域連携コーディネーターとの調整

本校では、地域の特色である雪を生かしくロスカントリースキーに取り組んでいる。競技経験のある保護者に指導をお願いしてきたが、お子さんの卒業で依頼が困難になり、対応に苦慮していた。そこで、地域連携コーディネーターに相談し地域人材を紹介していただくとともに、町教委の事業ともタイアップし講師謝礼を指導回数分確保した。充実した活動を目指すと同時に、子どもたちのためと休暇をとり協力してくださる方々に対し、予算的な裏付けは不可欠である。

・感謝の会運営

登下校の見守りや読み聞かせボランティア等でお世話になっている地域の方々を学校に招待し、給食の時間に感謝の会を行った。数年ぶりに児童・招待者が会食することとなり、実施案の作成と提案、招待者のリストアップ、出欠の集約、給食センターとの調整、席表示の準備等々苦勞する場面もあったが、「子どもたちと話せて良かった」「また呼んでほしい」という声とともに、交流を楽しむ姿に充実感を覚えた。

・学校運営協議会への参加

年に3回開催される学校運営協議会に出席し、授業参観、熟議にも加わった。課題に対し学校側として意見を述べるに留まったが、今後地域の方々と共に具体的な行動を起こす際には、調整役として関わりたい。



感謝の会実施案↑と会の様子↓



3 成果と課題

教職員の負担軽減と地域連携の充実を軸として実践してきたが、様々な業務に学校事務職員が関わることにより財務的な視点からのスリム化、効率的な運営ができた。また、外部との交渉や調整を通して地域連携活動への知見が深まったことも成果としてあげられる。

平29年3月の学校教育法第37条改正により、私たち学校事務職員は事務を「つかさどる」職となり久しい。未だその解釈は様々に存在するが、私は「学校の課題に対し、地域や関係機関とつながり、学校での知見を生かして解決に向け参画すること」ととらえている。学校規模の大小による課題は、多様かつ複雑であり、多忙化についても、教員の業務をいくつか肩代わりすることで解消されるような単純な問題ではない。私は、今後も「教育の質の確保と向上」「教員が指導に専念する時間の確保」を念頭に置きつつ、教科指導以外の業務すべてに関わるつもりで取り組んでいきたい。